

2022年度-1  
事業報告書

2022年4月 1日から  
2022年6月30日まで

公益財団法人 国際文化会館

目次	頁
I. 組織体制	3
II. 募金活動	4
III. 総務関係事項	5
IV. 施設管理	6
V. 会員関係	7
VI. プログラム活動	11
VII. 国際文化会館の運営	20

## I 組織体制

### A. 評議員会・理事会

当期は定時評議員会が1回、理事会は2回開催された。

### B. 評議員・理事・監事等

当期中の評議員・理事・監事等の異動は、以下の通りである。

#### 【評議員】

(重任) 五百簞頭 真 (重任) 川邊 健太郎 (重任) 道傳 愛子

#### 【理事】

(重任) 伊藤 実佐子 (重任) 小林 いずみ (重任) 小林 公成

(重任) 小林 正美 (重任) 近藤 正晃ジェームス

(重任) 千野 境子 (重任) 富川 秀二 (重任) 宮田 裕章

(重任) 渡辺 靖 (新任) 神保 謙

#### 【代表理事】

(重任) 近藤 正晃ジェームス (新任) 神保 謙

#### 【顧問】

(重任) 丸山 勇 (重任) 番場 孝司 (新任) 村井 純

#### 【名誉顧問】

(重任) 明石 康

当期末現在の評議員・理事・監事等の人数は、評議員18名、理事14名、監事2名、顧問4名である。

### C. 委員会

2022年度-1期中に開催された委員会は、以下の通りである。

- ・役員等候補者選出委員会 第1回 2022年5月18日
- ・ディベロップメント委員会 第1回 2022年6月22日

### D. 決算期変更

2022年3月9日開催臨時評議員会において、決算期の変更にかかる定款変更が承認可決され、従来の3月31日から6月30日に変更された。これに伴い、第11期事業年度は2022年4月1日から2022年6月30日までの3ヵ月間となっている。

## II 募金活動

### A. 助成金・寄付金

2022年4月から6月期に領収した各種助成金・寄付金の主たるものは、以下の通りである。(千円未満四捨五入)

	(千円)
The Commons Project	18,207
入会時寄付金	11,050

### Ⅲ 総務関係事項

#### A. 六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合

地区住民・地権者の協議機関である「六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合」（2008年設立）に会館も参加し、この地区のより良い街づくりについて話し合っている。

2019年11月に新たな新基本計画案、2020年度にはモデル権利変換計画が策定された。2021年度は基本設計業務を推進し、会館の土地では地盤調査や擁壁の強度調査が行われた。2022年度4-6月には全街区の基本設計が進められた。

## IV 施設管理

### A. 施設管理

2005年から2006年にかけて行った東館改修工事から約15年が経過し、建物や機器の補修・更新が必要となっていることから、空調機器や厨房機器など不具合が発生した機器の修理を行った。

## V 会員関係

### A. 個人会員

2022年4月から6月までの新規入会者数は66名（日本人61名、日本人以外5名）で、昨年同時期に比べ11名増加（日本人10名増、日本人以外1名増）した。退会届提出、死亡、会費滞納による退会者は33名（日本人26名、日本人以外7名）で、昨年同期比3名減少（日本人3名増、日本人以外6名減）した。これにより全体として33名の会員数の増加（日本人35名、日本人以外-2名）となり、2022年6月30日現在、日本人会員2,463名と日本人以外45カ国（地域）の会員825名の合計は3,288名となった。

	日本人	日本人以外	小計	合計
新入会員	61 (92%)	5 (8%)		66 (100%)
退会	13	3	16 (49%)	
死亡	13	1	14 (42%)	
会費滞納	0	3	3 (9%)	
小計	26 (79%)	7 (21%)		33 (100%)
国籍変更	0	0		
増減	+35	-2		+33

### B. 法人会員

2022年4月から6月の新規入会は2法人、退会も2法人で、昨年度末から増減なしとなった。これにより法人会員数は2022年6月30日現在、昨年度末と同じ、合計192法人218口となった。

		法人数	口数	昨年度比
4口	法人	2	8	0 (0口)
3口	〃	3	9	0 (0口)
2口	〃	14	28	0 (0口)
1口	〃	173	173	0 (0口)
計		192	218	0 (0口)

### C. 図書会員

2022年4月から6月の新規入会者は1名、退会者は6名で、2022年6月30日現在、図書会員は10カ国115名となった。

### D. 総収入

2022年4月から6月の図書会費を含む会費収入は、¥21,714,736で、昨年度比¥832,736増加し、入会時寄付金収入は¥11,050,000で、昨年度比¥2,100,000増加した。法人会費収入は¥7,654,000で、昨年度比¥656,000減少した。

	2022年4～6月 実績	予算	2021年4～6月 実績
個人会員費	¥21,714,736	¥18,825,000	¥20,882,000
入会時寄付金	11,050,000	7,000,000	8,950,000
法人会員費	7,654,000	8,750,000	8,310,000
合計	<u>¥40,418,736</u>	<u>¥34,575,000</u>	<u>¥38,142,000</u>

**法人会員分布**  
(2022年6月30日現在)

県／国	4口	3口	2口	1口	法人数	口数
千葉			1	1	2	3
東京	2	2	12	150	166	188
神奈川				1	1	1
富山				1	1	1
愛知				1	1	1
滋賀				1	1	1
大阪		1	1	1	3	6
岡山				1	1	1
福岡				1	1	1
沖縄				1	1	1
茨城				1	1	1
ドイツ				2	2	2
オランダ				1	1	1
イギリス				1	1	1
アメリカ				9	9	9
合計						
法人数	2	3	14	173	192	
口数	8	9	28	173		218

## 個人会員国籍別統計

(2022年6月30日現在)

国籍／地域	計	新入会員 (+)	退会 (-)	死亡 (-)	会費滞納 (-)	計
	2021年 2022/3/31					2022年 2022/6/30
オーストラリア	29	0	0	0	0	29
オーストリア	4	0	0	0	0	4
バングラデシュ	1	0	0	0	0	1
ベルギー	4	0	0	0	0	4
ブラジル	1	0	0	0	0	1
カナダ	35	0	0	0	0	35
中華人民共和国	6	0	0	0	0	6
チェコ	1	0	0	0	0	1
デンマーク	1	0	0	0	0	1
エクアドル	1	0	0	0	0	1
エリトリア	1	0	0	0	0	1
フィンランド	2	0	0	0	0	2
フランス	15	1	0	0	0	16
ドイツ	26	0	0	1	0	25
ハイチ	0	1	0	0	0	1
香港	5	0	0	0	0	5
ハンガリー	2	0	0	0	0	2
インド	9	0	0	0	0	9
インドネシア	4	0	0	0	0	4
アイルランド	5	0	0	0	0	5
イスラエル	0	0	0	0	0	0
イタリア	4	0	0	0	0	4
日本	2428	61	13	13	0	2463
ヨルダン	1	0	0	0	0	1
ケニア	1	0	0	0	0	1
韓国	24	0	1	0	0	23
マレーシア	3	0	0	0	0	3
メキシコ	1	0	0	0	0	1
ネパール	1	0	0	0	0	1
オランダ	7	0	0	0	0	7
ニュージーランド	2	0	0	0	0	2
ノルウェイ	1	0	0	0	0	1
フィリピン	2	0	0	0	0	2
ポルトガル	0	0	0	0	0	0
ロシア	1	0	0	0	0	1
サウジアラビア	1	0	0	0	0	1
シンガポール	7	0	0	0	0	7
スペイン	0	0	0	0	0	0
スリランカ	4	0	0	0	0	4
スウェーデン	6	0	0	0	0	6
スイス	5	0	0	0	0	5
シリア	1	0	0	0	0	1
台湾	6	0	1	0	0	5
タイ	9	0	0	0	0	9
トルコ	3	0	0	0	0	3
イギリス	53	0	0	0	1	52
アメリカ	531	3	1	0	2	531
ベトナム	1	0	0	0	0	1
日本人	2,428	61	13	13	0	2,463
日本人以外	827	5	3	1	3	825
合計	3,255	66	16	14	3	3,288

## VI プログラム活動

### A. 若手リーダーのネットワーク構築とエンパワーメント

#### 1. アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム (APYLP)

アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム (APYLP) は、来る数十年にわたりアジア太平洋地域の平和と繁栄を担っていく次世代のためのコミュニティで、地域内のさまざまなリーダーシップ・プログラムのフェローたちを繋ぎ、継続的な研鑽の機会を提供することで、新たな取り組みを生み出し、こうした次世代コミュニティの活動の拠点となる「場」を提供する。活動の柱として、APYLP 参画団体が中心となって年数回のジョイント・セッションを、日本をはじめアジア太平洋地域各地で開催する。

当期は、引き続きコロナウィルス拡大の影響を受け、オンライン上で インド太平洋のリーダーを招いたウェビナーシリーズを開催すべく助成金申請や関係者と協議した。

#### 2. 新渡戸リーダーシップ・プログラム

新渡戸リーダーシップ・プログラムは、新渡戸国際塾の継承事業として2018年度の準備期間を経て、より多様化・複雑化する課題に対し、既存の枠にとらわれない視点や方法で取り組む若手リーダーを発掘する事業として2019年度より開講した。近藤正晃ジェームス (国際文化会館理事長) が代表を務め、これまでに新渡戸国際塾を修了したフェローの中から選ばれた運営委員による企画のもと、「自ら未来をデザインし、実現する～変容するボーダーをどう越えるか」をテーマに、6月から12月まで全13回の講義を行った。

2021年度に引き続き当期も新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、開催を見送った。

一方で、既存のフェローネットワークを強化していく取り組みは引き続き行われた。「高校出張講座」のように新型コロナウイルスの影響で実施できないものもあったが、「同窓会」による情報共有や連携はオンラインやSNSを活用して実施され、フェローの繋がりや結束を強め、社会に対して積極的に貢献していくことを可能にした。

#### [高校出張講座]

新渡戸国際塾修了後に社会のために何か行動を起こしたいという同窓会企画委員の思いから2018年度にはじまったプロジェクトで、地方の高校を訪問し、多様な経験をもったフェローが高校生に向けて自身の経験をシェアすることでキャ

リア教育の一端を担うというものである。当該年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、実施を見送った。

### 3. HASSO 会

戦後 70 年以上経て未だ文化・歴史的背景の違いによる課題が山積している中、2019 年に発足した、立場や世代、性別、国籍、宗教などあらゆる垣根を越えた若手コミュニティ。多様な視点から密度の濃い意見交換を行うことで、新時代の平和と共存に貢献するリーダーたちが協働する機会を創出する事を目指す。行政・政策、学術、ビジネス、NPO・社会起業、テクノロジー、宗教・哲学、アート・デザイン、文化の 8 分野における才気あるリーダーたちが集まり、思索し、語り合い、創造するための機会と場を提供している。月 1 回、現代社会のさまざまな課題に対して当事者意識をもって取り組んでいる “Agent of Change” を囲む朝食会を開催するほか、国内外の視察を兼ねた交流ツアーも実施している。当期年度は、以下の 1 回の定例会合を実施した。

開催日	タイトル	スピーカーなど
6 月 24 日	「脳の可能性を追求するということ」	牛場 潤一 (慶應義塾大学教授、研究成果活用企業 株式会社 LIFESCAPES 代表取締役社長)

## B. 世界を変える叡智との対話

### 1. 牛場記念フェローシップ

現代の複雑化した国際情勢を読み解き、時代の一步先を見据える世界的なオピニオン・リーダーを招聘し、グローバル社会が直面する諸課題について意見交換を行うことにより、日本と諸外国との相互理解の増進を試みるプログラムである。滞日中のフェローは、公開講演会と専門家を中心としたセミナー、ワークショップなどに講師として参加するほか、各フェローの希望に応じて非公式な対談やディスカッションの機会を設定する。なお本フェローシップは、牛場信彦記念財団の残余財産の寄贈を受けて実施している。

当期は、今後のプログラムの拡大や発展を鑑み、選出方法を見直し、協賛先などを探した上で新たにフェローの選出を試みる予定であったが、コロナウィルス拡大の影響により事業は休止した。

## 2. 世界的なリーダーの招致

学識、政治、経済、文化等の分野の世界の第一人者を海外から招聘し、会館で講演会等を開催し、会館を世界的な知的交流のハブとして確立することを目指す。対象者としては、国賓級のゲストに加えて、各界を代表する世界的な賞の受賞者などで、日本での講演が特に大きな意義があると考えられる人から選別して招聘する。

当期はコロナウィルス拡大の影響により海外からの国賓級のゲストが来日する可能性が低いことから事業は休止した。

## C. 建築・都市・デザインと社会

### 1. Architalk ～建築を通して世界を見る～

日本建築界の三人の巨匠（前川國男、坂倉準三、吉村順三）によって設計された会館には、創立当初から現在まで日本の建築界を牽引してきた建築家や世界の建築関係者が会員として多数在籍しており、また国内外からの建築関係者の来館も多い。これらのネットワークを活かし、会館の建物の再生が行われてから10年目にあたる2016年度より、内外で活躍する建築家を招き、現代世界について考えるためのプログラムを開催してきた。

当期は、ウェビナー開催と日本の建築家の国際的な活躍と小川治兵衛氏策定の庭園の意義とネットワーク構築のための研究・調査のための助成申請などを行った。

### 2. 建物・庭園ツアー

国際文化会館を語るうえで欠かせない、日本モダニズム建築の巨匠、前川國男、坂倉準三、吉村順三の共同設計による建物と、わが国屈指の京都の名造園家「植治（うえじ）」こと7代目小川治兵衛の作庭による庭園を訪れた人々に案内するプログラム。建物や土地、庭の歴史から、会館の設立に関わった方々の信念を紹介することで、国際社会における会館の意義、ひいては平和な未来について考える契機として2019年度より実施している。

当期はオンライン・バーチャルツアーの準備として、京都を拠点に全国の日本庭園の設計・剪定・管理を手掛ける「独歩園」の庭師と、京都の宮大工による土橋の架け替え作業の記録を、作庭家の重森千青氏の指導のもと行った。

## D. グローバルな課題への取り組み

### 1. 日印対話プログラム

日印平和条約締結から 60 年を迎えた 2012 年、日印両国が主軸となり、アジア・太平洋の安定と平和を築くための対話の「場」を創出するため、会館と独立行政法人国際交流基金が共同で立ち上げた人物招聘事業である。2017 年度からは、シャハニ・アソシエーツ株式会社との共催事業として実施している。

本プログラムでは、社会のさまざまな問題の解決に向けて、現状を打破するための新しい価値やアイデアを提案している、インド国内で影響力のある人物を、政治・経済・文化・学術・科学など幅広い分野から、年間 1~2 名、一週間程度日本に招聘する。フェローは、講演会や関連機関の訪問などを通して日本の関係者と意見交換やネットワーク構築を行う。

当期は、知識人の招聘あるいはオンラインウェビナーによってインドの知識人層の紹介と日本のカウンターパートとの交流を促進するための助成金確保と関係団体との協議を行った。

## 2. 日米国際金融シンポジウム

国際文化会館はハーバード・ロースクール国際金融システム・プログラム (PIFS) との共催で、日米国際金融シンポジウムを実施している。本シンポジウムは、毎年日米交互で開催され、日米両国の政府高官、政治家、金融機関幹部、法律家、コンサルタント、研究者、メディア代表者など 100 名以上が参加し、2 日間にわたって国際金融システムの機能と安定化にかかわる問題について討議を行うものである。

当期は、2022 年 12 月 1 日~3 日に米国で開催予定の第 25 回シンポジウムの準備を共催団体であるハーバード・ロースクール国際金融システム・プログラムと行った。

## 3. 特別講演会

今日、国際社会はナショナリズムや排外主義の台頭、グローバル化への反動、テクノロジーの急激な進歩など、世界は既成の枠組みや従来の考え方が通用しない時代へと突入している。また、多くの国が「発展」や「成長」、「多様性」に力を注いできた一方で、さまざまな面で生じた分断や格差が際限なく広がりを見せている。そのような中、人々の対話と交流を通して共通の課題の解決に向けて取り組むため、2019 年度より各分野で世界的に活躍する会員の方を特別講師に迎え、年 4~5 回の講演会及びレセプションを実施している。

当期は 3 回講演会を開催し、幅広い分野から構成される会員を中心とした参加者が、講演会で問題提起された課題等について理解を深め、社会に貢献してゆく機会の創出を図った。

開催日	テーマ	講師
4月14日	パイオニアとして生きて	上野千鶴子（社会学者） 杉山文野（フェンシング元女子日本代表） モデレーター： 久保田智子（TBS 報道局記者）
4月26日	朗読コンサート「平和の祈り」	吉永小百合（俳優） 村治佳織（ギターリスト）
5月18日	日印の未来と可能性～インド太平洋地域の平和と共生の実現に向けて	サンジェイ・クマール・ヴァルマ（駐日インド特命全権大使）

#### 4. 70周年記念事業

国際文化会館は、戦後、米ソ対立によりアジアの冷戦が深刻化する中で設立され、その後の日本と国際社会の平和と繁栄に大きく貢献してきた。設立70周年を迎える2022年に向けて、70年前の大胆な取り組みに学び、今後長きにわたり日本と国際社会の平和と厚生の上昇に寄与していくことを目指す。

当期は、これまで国際文化会館が担ってきた社会的役割を再検証し、次代に向けて国際文化会館が果たすべき役割を担う新たなプログラムの準備を整えるために、会館内にプロジェクトチームを発足した。特に社会科学国際フェロシップ（通称：新渡戸フェロシップ）で海外研究に携わった研究者のオンラインインタビューの準備やジャパン・ソサエティと共催で行ったビジネス・フェロシップのフェローのデータベースの整備などを進めた。

#### 5. Value Co Creation Academy (TCP)

テクノロジーをはじめとする様々な分野から、また分野横断的に新たな社会的価値の創造を行うためのプログラム「Value Co-creation Academy」を2020年度から発足した。本プログラムの一環として、新型コロナウイルス感染拡大の影響で国境を越えた人々の往来と交流が停滞するなか、テクノロジーとデータの活用を通じて安全な国境往来を目指す非営利組織「コモンズ・プロジェクト」(The Commons Project; TCP / 本部 スイス) の活動を日本国内で推進する。この事業は世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター (C4IR) との連携のもとで実施される。

当期には、日本政府が発行するデジタル接種証明書の規格として TCP が推進する医療データ記録のための国際標準「SMART Health Cards」の採択を実現し

た（国内用・海外用）。また、国際渡航に際して PCR 検査結果を示す TCP が推進するデジタル証明書「コモンパス」の実証実験とその評価報告、政府機関や関連業界等との連携強化を行った。

## E. 文化・芸術/人文科学と社会助成事業

### 1. 日米芸術家交換プログラム（共催日米友好基金）

米国の芸術家5名（5組）が来日し、3～5カ月間、日本の文化・芸術を研究し、創作活動を行ったり、日本の芸術家と交流を深めたりするプログラムで、日米友好基金（Japan-United States Friendship Commission）が主催し、国際文化会館は来日中のフェローの活動支援を受託している。1978年より実施され、専門スタッフが来日時のオリエンテーションや住居の手配、日本人芸術家や関連団体などへの紹介、情報の提供や通訳など、フェローの活動全般をサポートしている。

当期は、新型コロナウイルス感染拡大のため 2020・2021 年度中に来日できなかったフェローの活動、および来日のサポートを行った。

2020 年度のフェローとして選出されたのは以下のアーティスト。

- ジーン・コールマン Gene Coleman（音楽家）
- キャメロン・マッキニー Cameron McKinney（振付家、ダンサー）
- スー・マーク&ブルース・ダグラス Sue Mark & Bruce Douglas（インターディシプリナリー・アーティスト）
- ジェシー・シュレシンジャー Jesse Schlesinger（ビジュアル・アーティスト）
- ベンジャミン・ヴォルタ Benjamin Volta（ビジュアル・アーティスト）

2021年度のフェローとして選出されたのは以下のアーティスト。

- マーク・ド・クライヴ=ロウ Mark de Clive-Lowe（作曲家／音楽家）
- ダコタ・ギアハート Dakota Gearheart（ビデオアーティスト）
- ヨナ・ハーヴェイ Yona Harvey（作家）
- ロバート・ハッチソン Robert Hutchison（建築家）
- リー・ソマーズ Lee Somers（陶芸家）

## F. 助成事業

### 1. 「アジール・フロタン」復活事業

「アジール・フロタン」とは、ル・コルビュジエが 1929 年に、救世軍の依頼によりリノベーションした船を、難民のための浮かぶ避難所として設計した作品である。2018 年 2 月のセーヌ川の増水により沈没したため、この「ア

「ジュール・フロタン」の浮上と修復工事そして修復工事後の復活に関わる展覧会等の実施を目的とする事業である。「アジュール・フロタン」を復活（浮上と修復）させることは、日仏の文化と建築領域の交流と発信に大きく資するほか、「アジュール・フロタン」は1929年にル・コルビュジエに弟子入りをしていた建築家前川國男（会館を設計した建築家の一人）の担当した作品でもあり、日本の近現代建築の貴重な歴史的証となるものである。さらに、「アジュール・フロタン」は、難民の避難所として利用され、現代史において社会に果たした役割も大きい。

2019年度内に浮上工事が完了する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大およびフランスの政治状況の影響を受けて延期となり、2020年10月の工事再開により浮上した。当期は引き続き日本建築設計学会主催の本事業を広く一般に広報するための支援を行った。

## G. 広報・情報発信

### 1. 定期・不定期刊行物

定期メルマガおよび臨時メルマガを発信し、アップトゥデートな情報を配信した。

各年度の事業内容をまとめた年次報告書は、2019年度よりウェブサイト上に公開している。

### 2. アイハウス・プレス

2006年より、出版メディアを通して、会館のプログラム活動の成果を広く一般に発信するとともに、海外における日本理解の増進を目的として、日本人による名著を英訳・刊行して発信する活動を基本として実施している。

当期は、これまでに刊行された書籍の販売を継続するとともに、電子化の可能性について引き続き検討した。

### 3. Web、SNSなどによる情報発信 前田 済

当期も引き続きオンラインでのプログラム配信が多かったため、Youtubeを活用した。Facebook、Twitter、Instagramなどソーシャル・メディアによるスピーディかつインタラクティブで非接触なコミュニケーションにも継続して注力した。

## H. 図書室

### 1. 通常業務

当期の図書室サービスにおいては、前年同時期と比較して来館者は減少したが、貸出は増加した。

	2021年4月-6月	2022年4月-6月
蔵書		
図書	27,650 冊	27,434 冊
雑誌タイトル	387 種	374 種
受入図書	73 冊	64 冊
購入	37	20
寄贈	36	44
受入雑誌	546 冊	501 冊
除籍図書	39 冊	172 冊
開室日数	74 日	73 日
来館者	1,698 人	1,241 人
日本人	1,302	977
外国人	396	264
貸出	175 冊	202 冊
図書館間貸出	29 件	20 件
依頼	19	9
受付	10	11
レファレンス	179 件	146 件
来館	117	94
電話	22	12
手紙・ファックス	0	0
電子メール	40	40
パソコン利用者	29 人	17 人
図書会員	122 人	115 人
入会	7	1
退会	6	6

(2022年6月30日現在)

## **2. アーカイブ基盤整備事業**

会館に保管されている写真、事務文書、各種の記録など、戦後の文化交流史を語る一次資料の活用を可能にし、総合的な基礎目録をインターネット上で公開することを目的として、3カ年計画（2017～2019年度）で本事業を実施した。当該年度は今後のアーカイブ資料の保存や活用について検討した。さらに専門家に依頼し、会館アーカイブの分析および活用について調査を実施した。

## **3. その他**

### **(a) 書籍小展示（共催日仏会館図書室、ドイツ日本研究所図書室）**

本小展示は日仏会館図書室、ドイツ日本研究所図書室と共催で行ったもので、同じテーマについて会館では英語の資料、日仏会館ではフランス語の資料、ドイツ日本研究所図書室ではドイツ語の資料を展示しており、当期は、展示テーマについて共催機関と協議した。

### **(b) その他の書籍小展示**

広報の一環として、会館に関係した図書や会館を紹介している図書等の展示を実施している。当期は展示資料について検討した。

## VII 国際文化会館の運営

当期は、研究個室（宿泊施設／全 31 室）において、1,087 名の宿泊客を迎えた。通常、外国人の利用は 60%を越え、国内外の国際交流関係者、学者、芸術家、文化人、知識人の方々が集う施設としての特色を表すが、新型コロナウイルスの影響により、外国人の利用は 43.2%と大幅に減少した。

別館に位置する会合施設（講堂／セミナー室）での利用者は 3,790 名、東館の会合施設（岩崎小彌太記念ホール／樺山松本ルーム）では、6,982 名に利用された。

料飲施設のティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』は、13,885 名に利用された。また、主食堂のレストラン『SAKURA』は、3,883 名の利用があった。

### 【ティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』キャンペーン・イベント】

- 桜御膳（2022 年 3 月 14 日～4 月 10 日）

### 【レストラン『SAKURA』キャンペーン・イベント】

- 桜フレンチコース（2022 年 3 月 14 日～4 月 10 日）

以上の結果、別館を含む会合施設および料飲施設の総利用客数は、32,375 名となった。また会員懇親の催しとして、以下を開催した。

- 観桜会 Sakura Party（2022 年 4 月 1 日 参加者 30 名）

## サービス活動実績

研究個室

自 2022年 4月 1日

至 2022年 6月 30日

	2021年4-6月	2022年4-6月	増減	前年比
宿 泊 者 数	633	1,320	687	208.5%
一日平均宿泊者数	7.0	14.5	7.5	208.5%
外 国 人 比 率	21.0%	43.2%	22.2%	205.7%
稼 働 率	17.6%	38.5%	20.9%	218.8%
収 入 額	¥6,573,514	¥14,066,136	¥7,492,622	214.0%
一日平均収入額	¥72,236	¥154,573	¥82,337	214.0%

会議室・婚礼関連・料飲施設

自 2022年 4月 1日

至 2022年 6月 30日

		2021年4-6月	2022年4-6月	増減	前年比
セミナー室	収 入 額	¥6,094,296	¥10,354,599	¥4,260,303	169.9%
	客 数	2,179	3,790	1,611	173.9%
	客 単 価	¥2,797	¥2,732	¥-65	97.7%
会 議 室	収 入 額	¥12,292,544	¥57,331,479	¥45,038,935	466.4%
	客 数	1,265	6,982	5,717	551.9%
	客 単 価	¥9,717	¥8,211	¥-1,506	84.5%
婚 礼	収 入 額	¥33,779,118	¥79,145,501	¥45,366,383	234.3%
	客 数	1,181	2,748	1,567	232.7%
	客 単 価	¥28,602	¥28,801	¥199	100.7%
レストラン	収 入 額	¥10,902,852	¥28,419,128	¥17,516,276	260.7%
	客 数	2,008	3,883	1,875	193.4%
	客 単 価	¥5,430	¥7,319	¥1,889	134.8%
ラウンジ	収 入 額	¥18,635,686	¥28,855,206	¥10,219,520	154.8%
	客 数	9,628	13,885	4,257	144.2%
	客 単 価	¥1,936	¥2,078	¥143	107.4%
合 計	収 入 額	¥81,704,496	¥204,105,913	¥122,401,417	249.8%
	客 数	16,261	31,288	15,027	192.4%
	客 単 価	¥5,025	¥6,523	¥1,499	129.8%
一 日 平 均	収 入 額	¥223,848	¥2,242,922	¥2,019,074	1002.0%
	客 数	179	344	165	192.4%